

秀峰

議会だより

第139号
平成26年 3 月定例会

発行日／平成26年 4 月30日

責任者 議会議長 都築正光
編集 議会広報編集特別委員会
事務局 大豊町高須231
電話 0887-72-0450(代表)

第449回 平成26年 3 月定例会

一般質問

修学支援の更なる充実に

問 給付制奨学金制度創設の検討を議論したことはないが、医師確保には国保連合会の制度がある



前野由和 議員

県内でも高い評価を受けている修学支援制度について、述懐や感想はあるか。現在は公平性を重視した制度になっている。高校教育は準義務教育化している一方、大学への進学率も高くなっている。しかし、教育費の負担は高額となり、小学校から大学卒業まで全て国公立であっても1千万円、私立なら2千万円にもなっている。親が教育費の準備で苦労している実態が浮かび上がり、親の所得による学歴、雇用の正規・非正規の比率、年金も含めた生涯賃金額など格差は統計上歴然と

している。所得による格差は、教育の場にも例外なく持ち込まれ繰り返されている。大学を卒業した時点で数百万円の教育ローンの負債を抱えた若者も多く、勉学意欲があっても経済的理由によって進学を諦めなければならぬ事態は、教育を受ける権利を剥奪するに等しい。

憲法が保障する教育を受ける権利、教育基本法が奨学の措置を講ずべきと町の役割を要請している。憲法を暮らしの中に活かすために奨学金制度創設の考えはないか。

前野由和議員

1954年3月1日

マーシャル諸島ビキニ環礁での水爆実験の被災から60年が経った。年月の経過は事件の風化を招いているが、汚染は私たちの身近なところに存在していたことが改めて認識された。被災船は延べ千隻にのぼり、深刻な海洋汚染、更には大気汚染も拡大した。しかし、政治決着が図られて海洋汚染調査は年内で打ち切られてしまった。アメリカは報道規制をとり、放射能汚染の拡大と被害の実態は歴史の闇に隠されてし

一般質問

ビキニ事件を後世に語り継ぐ努力を

問 事件について語り継ぐ責任を果たせビキニ事件は承知している



岩崎憲郎 町長

大学生に対する町単独の修学支援について議論をした経緯はない。ただ医師の確保について国保連合会の奨学金制度などがある。

また。もし被害の実態が調査され報道されていたら核軍拡も原発の推進もなかっただろうと言われている。

足元から平和を考える高校生のサークル活動の中で、被災漁民がいることを知った「幡多ゼミナール」の地道な活動は、歴史の闇から被災の実態と犠牲の多さ、そして、今も健康被害で苦しんでいる被災者のことを社会に問いかけた。アメリカの外交文書の中から放射能汚染の資料が発見され、高校生たちの調査資料を裏付けるものとなっ

た。

ドキュメンタリー映画「ビキニの海は忘れない」が製作された。ナレーターは女優の吉永小百合さんが務めている。「いま、高校生たちが、しらけていると言われますが、この映画を観て希望があるという気がします」と励ましてくださったという。

は町民全ての意思だと力説された。核の恐怖のない社会をバトンタッチする世代としての責任がある。目に見える形での行動を。

岩崎憲郎町長

ビキニ環礁の水爆実験によって、第五福竜丸が被爆したことは承知している。

町長は議会答弁で反核

一般質問

再生可能自然エネルギー普及を

問 取り組みの到達点、見通し、課題は
答 風力発電は平成30年稼働予定、小水力発電は未定

前野由和議員

福島第一原子力発電所の事故原因は究明されていない。しかし、エネルギー基本政策では、脱原発から原発依存・再稼働に前のめりの方向転換が見られる。電気が足りない。燃料費が高くなる。温暖化につながるなど再稼働に向けての揺り戻し

の議論が繰り返されている。再生可能な自然エネルギー導入への取り組みと到達点、見通しと課題は。

エネルギー自給率4%の日本で再生可能なエネルギーへの取り組みは、新たな産業を興し地域再生の鍵を握ると思う。木質バイオマス発電について



風力発電（ゆとりすとパークおおとよ）

では困難な課題があっても住民の合意と協力を得ながら推進するよう望む。

岩崎憲郎町長

風力発電は平成30年稼働予定。小水力は候補地を県企業局に示したが事

業化に至っていない。木質バイオマス発電は「高知おおとよ製材工場」で発電開始、消費電力の一定を賄っている。木質バイオマス発電などの再生可能エネルギーの開発は積極的にチャレンジする。

一般質問

アンネの日記関連図書破損

問 アンネ関連図書の大量破損事件をどう思うか

答 人道に反するものがある

前野由和議員

首都圏ではアンネの日記関連図書が大量に破られた。また、かつて日本が植民地化した人々に対する差別発言を叫ぶデモが繰り返されている。今日の状況を見た時に、どのような感想を持っているか。

言い分を破壊活動に変えることを許しては民主社会は維持されていかない。暴力行為によって正当な言論や行動が委縮されるのがあってはならない。何げない日常を続けることができない。自分の意思に反して家族が引き離される暗黒の歴史を二度と繰り返してはいけないと考える。

従軍慰安婦問題や南京虐殺事件など過去の歴史

岩崎憲郎町長

本を破る行為について事件の背景は分からない部分がある。人種差別など人道に反することは、あってはならないことだ。

